

# 内之浦宇宙空間観測所

年表

# 1961

- 
- 2月- 内之浦長坪地区調査
- 
- 4月1日 K-9L-1 高度310km到達  
(道川)
- 
- 4月12日 ソ連、ヴォストーク1号打上げ  
(初の有人宇宙船、  
ガガーリン飛行士搭乗)
- 
- 5月5日 米国、マーキュリ宇宙船打上げ  
(弾道飛行、  
シェパード飛行士搭乗)
- 
- 7月21日 郵政省電波研究所と  
東京大学がロケットによる  
電離層観測
- 
- 9月 K-8L(K-6S)開発に着手
- 
- 12月26日 K-9L-2 高度300km以上  
の電子密度、温度の観測  
(道川)
- 



内之浦長坪地区調査



内之浦長坪地区調査



# 1962

- 
- 2月2日 鹿児島宇宙空間観測所の開設(起工式)  
OT-75-1打上げ  
(KSC1番機)
- 
- 4月25日 科学技術庁  
航空宇宙課設置
- 
- 5月24日 K-8-10 ロケット事故  
(秋田ロケット実験場での最後の実験となる)  
※秋田実験場での打上げ総数88機
- 
- 8月23日 K-8L-1打上げ  
最高高度173km(内之浦)  
※K-8L型は1966年まで12機飛翔
- 
- 10月 能代ロケット実験場の開設
- 
- 10月 Mロケット直径1.4mに決定
- 
- 11月25日 科学観測ロケットの主力機  
K-9M-1打上げ  
※K-9M型は1988年まで81機飛翔
- 
- 12月18日 K-8-11打上げ
- 



予定地全景



起工式の様子



東京大学茅誠司総長の鍬入れ



OT-75ランチャと実験班



K-8-11ランチャセット



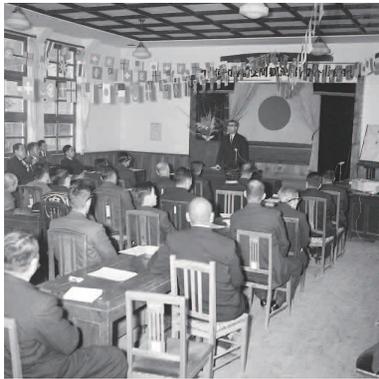
K-9M-1



ロケット台地



K-8-11 集合写真



協会会での東京大学茅誠司総長あいさつ



歓迎のロケット飾り運ぶ



町役場



2月3日 南日本新聞



8月24日 南日本新聞

# 1963

3月31日 計器センター  
ロケットセンター  
テレメーターセンター  
コントロールセンター  
宮原4mレーダー室 竣工

4月 M(ミュー)ロケットの  
開発研究に着手

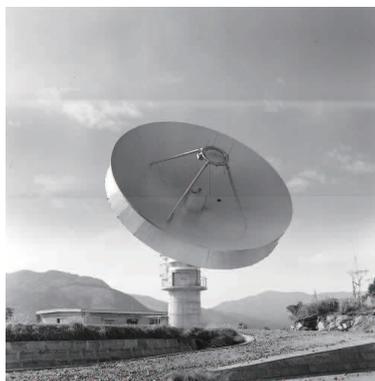
4月16日 科学技術庁  
航空技術研究所を  
航空宇宙技術研究所と改称

12月9日 東京大学鹿児島宇宙空間  
観測所開所式

12月10日 L(ラムダ)-2-2打上げ  
L-2型飛翔性能確認



開所式全景



18mφアンテナ



L-2-2ランチャセット



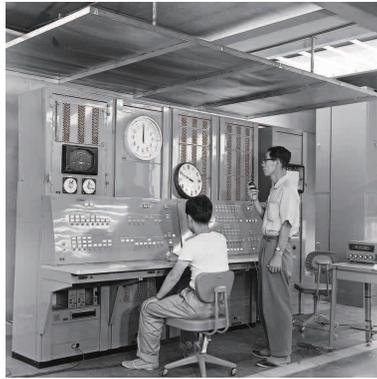
L-2



L-2-1 飛翔実験集合写真



来賓の方々と糸川英夫



コントロールセンター制御卓



宮原4mφレーダ



内之浦町協会で糸川英夫の挨拶



開所を歓迎する町の飾り付け



10月13日 南日本新聞



12月10日 南日本新聞

# 1964

1964年 太陽活動極小期国際観測年  
-65年 (IQSY)

4月1日 東京大学宇宙航空研究所  
発足

7月1日 科学技術庁に  
宇宙開発推進本部設立

7月11日 L(ラムダ)-3-1打上げ  
高度1,000kmに到達  
電離層宇宙線、雑音電波の  
観測

7月24日 IQSYに関連して  
初の気象観測ロケット  
MT-135-1打上げ  
※MT-135型は2000年まで  
73機飛翔



建設中の美宇橋



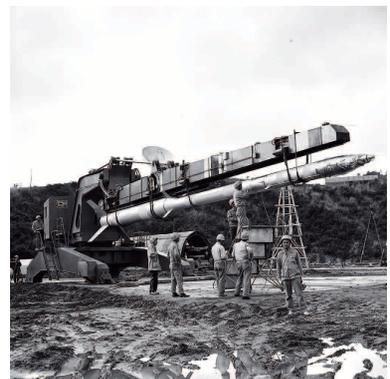
頭胴部組立て



ランチャに組付けられたL-3-1



18mφアンテナ



ランチャに組付けられたL-3-1



L-3-1 ランチャーセット



搭載機器組立て



コントロールセンター管制卓



内之浦町協力会



内之浦の子どもたち

7 昭和39年1月4日 土曜日 南日本新聞 第3種郵便物特許

# 宇宙にかける 果てしない夢

## ラムダからミューに 電子ロケット研究も進む

### 宇宙の雄飛

日本宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、ラムダ型電子ロケットの改良型ミュー型を開発する。ミュー型は、ラムダ型に比べて、推力が約2倍、燃焼時間が約10倍と大幅に向上する。また、構造も簡素化され、製造コストも削減される。ミュー型の開発は、日本の宇宙開発の重要なステップと見られており、将来的には、月面探査や火星探査などに活用される予定だ。

完成した極東のケーブルテレビ 内之浦基地

### 内之浦基地から月へ

内之浦宇宙基地は、日本の宇宙開発の重要な拠点として、近年急速に発展している。基地には、宇宙船の打ち上げや、宇宙飛行士の訓練が行われ、多くの宇宙飛行士がここから宇宙へと旅立った。また、基地には、宇宙飛行士の生活を支えるための施設も整備されており、宇宙飛行士の健康と安全を確保している。内之浦基地は、日本の宇宙開発の未来を担っている重要な存在だ。

### 秒速一万千を突破

宇宙飛行への足がかり

宇宙飛行への足がかりとして、秒速一万千を突破する必要がある。これは、地球の重力圏を脱出するために必要な速度だ。現在の宇宙飛行は、秒速約10km程度で進んでいるが、将来的には、秒速一万千を突破し、宇宙空間を自由に航行できるようにしなければならない。これは、宇宙開発の大きな課題の一つとされている。

### 宇宙の雄飛

宇宙の雄飛は、人類の夢の一つであり、多くの科学者がこれを達成するために努力している。宇宙には、無限の可能性があり、多くの未知の世界が存在している。宇宙を征服することは、人類の進歩にとって重要なステップであり、多くの国々が宇宙開発に力を入れている。宇宙の雄飛は、人類の未来を拓く重要な道である。

### 宇宙の雄飛

宇宙の雄飛は、人類の夢の一つであり、多くの科学者がこれを達成するために努力している。宇宙には、無限の可能性があり、多くの未知の世界が存在している。宇宙を征服することは、人類の進歩にとって重要なステップであり、多くの国々が宇宙開発に力を入れている。宇宙の雄飛は、人類の未来を拓く重要な道である。

# 1965

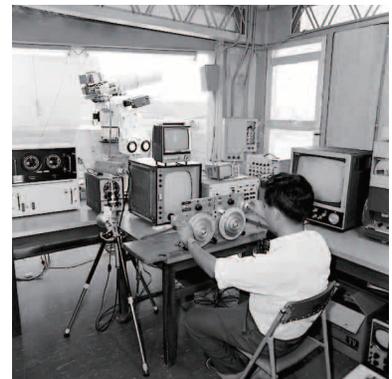
- 5月29日 初の大型モーター  
M-10用1400 3/3#1  
燃焼試験(能代)
- 6月20日 科学衛星計画発表  
(日本学術会議  
宇宙空間研究特別委員会)
- 7月26日 K-9M-12、黄道光、  
銀河X線、地磁気等の観測  
X線星発見
- 11月8日 観測ロケット K-10-1打上げ  
科学衛星計画のための  
技術試験機として開発され  
科学観測にも活躍  
※K-10型は1980年まで14機飛行
- 11月26日 フランス、初の人工衛星  
ディアマンA1号打上げ
- 11月27日 1400 3/3#2 燃焼試験  
(能代)
- 12月12日 鹿児島宇宙空間観測所  
「美宇橋」渡り初め  
(ミュウ台地開通式)



L-3-3ランチャ載せ



BT-160



光学観測点



K-10-1ロケット組立



K-10-1 打上げ



# 1966

3月5日 L-3H-1打上げ  
バン・アレン帯など観測  
※L-3H型は1977年まで9機飛翔

3月25日 ミュー管制室竣工

7月29日 茨城県大洋村の  
仮設実験場において  
大気球実験を開始  
B01-1 飛翔性能試験  
到達高度16km  
※大洋村での放球 48機

8月3日 東京大学  
K-9M-11ロケットによる  
TV撮影、地上送信に成功

9月26日 L-4S-1打上げ  
※第2段分離の異常のため第3段が  
異常飛翔し、衛星にならなかった

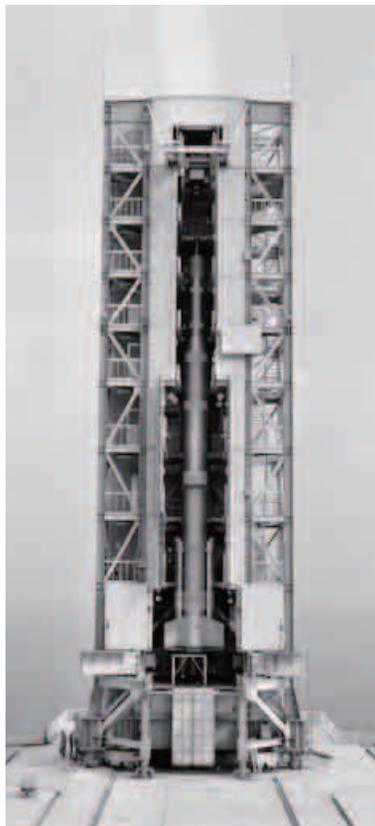
10月13日 ミューセンター竣工式

10月31日 M-1-1打上げ  
M第一段性能安定性確認  
SB分離

12月20日 L-4S-2打上げ  
※最終段が点火しなかったため、  
衛星にならなかった



ミュー台地建設風景



M整備塔で組立てられたM-1-1



M-1-1



# 1967

2月6日 L-3H-3打上げ  
銀河X線、雑音電波、放射線  
等の観測  
高度2,150kmに到達

3月25日 科学衛星テレメーター室  
軌道計算センター  
精測レーダー室 竣工

4月13日 L-4S-3打上げ  
※第3段が点火しなかったため、  
衛星にならなかった。

4月14日 漁業者との交渉のため  
ロケット打上げ中断  
(～68年9月10日)



L-3H-3 搭載機器チェック



ノーズフェアリングかぶせ



PT-210-2



L-4S-3 打上げ



# 1968

2月6日 18mφパラボラ空中線装置完成

7月20日 福島県原ノ町に  
大気球実験場移転  
BC01-1 飛翔性能  
到達高度18km  
※原ノ町での放球 94機

8月16日 宇宙開発委員会発足

9月10日 東京大学、科学技術庁  
ロケット打上げ再開

9月14日 S-160-1打上げ  
※S-160型は1972年まで4機飛翔



コントロールセンターとテレメータセンター



宮原レーダ台地からの遠望



計器センター



頭胴部調整室



18mφアンテナ



# 1969

1969 太陽活動期国際観測年  
-1971年 (IASY)

1月9日 S-300-1 打上げ  
※S-300型は1969年に3機飛翔

7月16日 アポロ11号 打上げ  
7月20日  
人類初の月面着陸成功

8月7日 観測ロケットS-210-1  
打上げ  
高度107km  
南極の気象観測用としても  
活躍  
※S-210型は1982年まで  
13機飛翔

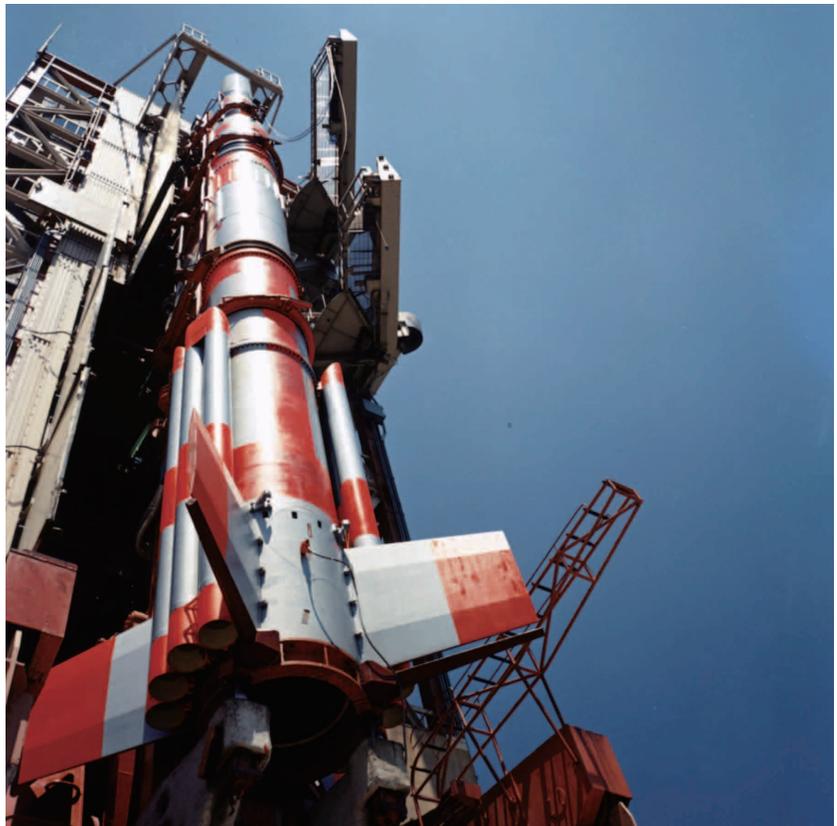
8月17日 M-3D-1 打上げ  
M-4Sテスト機

9月3日 L-4T-1 打上げ  
L-4Sテスト機

9月22日 L-4S-4 打上げ  
※第3段に上段が追突し、  
衛星にならなかった。

9月25日 K-10C-2(SITVCテスト機)  
打上げ  
1段目がランチャより落下、  
メインのみ飛行

10月1日 科学技術庁  
宇宙開発推進本部が  
特殊法人宇宙開発事業団  
となる



ランチャにセットされたM-3D-1



IT-160-3



L-4T-1



L-4S-4 打上げ



S-300-2



PT-420



L-4T-1 集合写真



K-10C-2の1段目



8月18日 南日本新聞



9月27日 南日本新聞